



Title	心肺蘇生施行時の感染について
Author(s)	早川, 峰司; Hayakawa, Mineji; 鹿野, 恒 他
Citation	日本救急医学会雑誌, 12(9), 489
Issue Date	2001-09
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/47093">https://hdl.handle.net/2115/47093</a>
Type	journal article
File Information	NK12-9_489.pdf



心肺蘇生施行時の感染について

Infection associated with cardiopulmonary resuscitation

早川 峰司 Mineji Hayakawa

鹿野 恒 Hitoshi Kano

市立札幌病院 救命救急センター

〒060 - 8604

札幌市 中央区 北 11 条 西 13 丁目

市立札幌病院 救命救急センター

早川 峰司

Tel: 011 - 726 - 2211 Fax: 011 - 726 - 7912

e-mail: [miniji@dream.com](mailto:miniji@dream.com)

我々は心肺蘇生(Cardiopulmonary resuscitation、以下 CPR と略す)、特に一般市民への Basic Life support を普及させる立場にある。しかし、一般市民の CPR 中の感染に対しての検査や治療に関する対応の整備は行なわれていない。今回、その重要さを考えさせられる症例を経験したので、問題点と共に提示する。

患者：22 才男性。外傷性心肺停止状態。

経過：バイクに乗車中、停止しているところに後方から乗用車に追突され受傷した。加害者により、患者が心肺停止状態であることが確認され、心臓マッサージが開始された。偶然、事故に遭遇した女性が CPR に参加し、口対口人工呼吸を担当した。また、女性の手は、直接、患者の血液により汚染された。患者は当センターに搬入されるも、高位頸髄損傷および脳挫傷により死亡した。

CPR に参加した女性より、感染の危険性および検査、治療についての問い合わせがあった。しかし、現時点では対応する制度がないため、検査および予防的な薬剤の投与は、本人負担になることを説明した。そして、このことを患者家族に説明し、緊急的に患者の感染症検査を施行し、各種感染症が陰性であったことを確認した。

現時点では、善意の一市民による CPR 中の感染に対しての検査や治療などに関する制度はない。また、119 番通報時における口頭指導によ

る CPR の際の感染については、各自治体によって対応が異なるようである。この問題は、大きく以下の 3 つの点に分類できると思われる。

- ① 責任の所在は何処にあるのか？
- ② 感染症の検査および治療の費用は誰が負担するのか？
- ③ もしも、感染した場合の対応は？

いずれの点も、自治体レベルではなく、国のレベルで統一した対応が必要な問題と思われる。日本救急医学会としても、この問題に対する検討および関係各機関への働きかけが必要なのではないだろうか。